

京阪神地区4館

参考事務研究会の紹介

——相互協力の一例として——

貴田 春 男

1 研究会が生まれるまで

図書館間における参考事務の相互協力は、過去何度となく唱えられ、またすでに各地で実践の段階に入っているところも多い。しかし、関西地区における実情は、他府県の実践例に比べると、まだ本格的なものとはいえないが、ささやかな努力が続けられていることは確かである。

幸いなことに関西地区には、志智嘉九郎氏(元神戸市立図書館長)や木寺清一氏(元大阪府立図書館司書部長、現図書館短大教授)の指導により、参考事務の重要性をつぶさに叩き込まれた人も多い。また各館の館員も、時間を見出しでは、他館を訪ね、お互いの意見を卒直に開陳し、参考事務に対する理解と具体的な方法の研究に努力を重ねてきた。昭和27年頃に始まる話である。やがてこうした館員同志の交流が深まるにつれ、昭和34年、名古屋における図書館大会、調査相談部会で「参考事務規程の作成」と「参考事務の相互援助協約」の2つの提案(提案者=木寺清一

説明者=栗原均・現堺市立図書館長)となって現われるにいたった。以来、参考事務規程の立案は、参考事務分科会長志智氏を中心として検討が加えられ、昭和36年3月成案となった。しかし、参考事務における相互協力の体制づくりは、各館の事情に影響され、一進一退を繰り返すばかりで、いささか手をこまねくありさまであった。

一方、参考事務を中心とした利用者サービスの充実を図るため、主題別閲覧制度の採用が話題にのぼる。やがて大阪府立図書館は、館内全般にわたって施設の改装、整備を施し、昭和36年から37年にかけて全部門におよぶ主題別制度を採用し、本格的な参考図書館としてその第一歩を踏み出すにいたる。また、これと並行して大阪市立中央図書館が新設開館(36年11月)、さらに昭和38年には京都府立総合資料館が新設開館となり、両館とも主題別閲覧制度を採用する。しかし、主題別にレファレンス・サービスを行なうといいつながら、果たして利用者の要求に十分応えられる体制にあるだろうか。図書

館の利用者、ことに公共図書館の利用者は、常に不特定多数、またあらゆる階層、職業の人を想定しなければならない。

自分たちの館で行なう参考事務が、満足な回答なり資料提供ができているのであろうか。素朴な疑問が湧いてくる。もし、自館で処理できない場合、他の類縁機関が快く協力してくれるのだろうか。そのような場合、他館では一体どうしているのだろうか。また、自館の蔵書構成なり、書誌類の作成、駆使について十分理解できているのだろうか。補助ツールがうまく作成され、それがフルに活用されているか。思いつきのツールに終わっていないか。さながら走馬灯のように頭の中を駆けめぐる。どうしても判らぬ未解決事例はどんなものなのか。あるいは他館では、同一の問題について解決できているのか。その実態は？

まさに十年一日のごとき繰り返してあったが、こうした中でも神戸市立では、『戦後国内重要ニュース索引』（昭35年、第1集）の労作を刊行、つづいて大阪市立中央では、『読書相談の記録』（昭38年、第1集）が刊行され、参考事務に大きなひ益をもたらすことになる。

かくして昭和43年3月、西藤寿太郎氏（元大阪市立中央図書館長）の提案により、「京阪神地区4館参考事務事例交換会」が発足し神戸市立、京都府立総合、大阪市立中央、大阪府立の4館が加盟、第1回が大阪市立中央で開催さ

れるにいった。

2. 会の運営と方法

発足当時は、事例交換会と呼称したが、第11回から参考事務研究会と改称、第9回以降は、上記加盟館の他、オブザーバーとして名古屋市鶴舞中央図書館と都立日比谷図書館が参加、最近には都立中央図書館の参加を見るにいった。例会は4カ月に1回、4館持ち回りである。会の目的は、各館における参考事務の実情を紹介し合うことにより、相互の協力と理解を深め、業務の内容を充実させるかたわら、館員の資質向上を図ることに主眼がおかれている。したがって各館からの参加者は、ベテランと新人の組合せであり、特に新人については、この研究会に参加することにより、参考事務のあり方、資料の探索方法、さらに他館の実情をつぶさに体得させるという研修の意味も兼ねている。京阪神地区における相互協力が、体制としてはなほだ不十分であるとはいえ、人と人とのつながりを中心として協力し合うことの効用は実に大きい。相手館の迷惑を考え、つい億くうになりがちな依頼も気軽に声をかけられることをみても、この会の存在価値は極めて高いといわねばならない。

さて、研究会の内容は、開催前に当番館が各館あてテーマに関する参考事務事例の作成を依頼することから始まる。各館は解決事例10題、未解決事例10題、計20題を当番館に回付し、当番

館は、それらを集約してふたたび各館へ例会前に配付する。各館は、他館の事例をあらかじめ検討し、例会に臨むのである。例会では、この資料を中心に、質疑応答が繰り返され、事例解決への過程を研究する。解決事例については、解決に役立った資料の説明、その他関連する参考資料の紹介、また未解決事例については、どの時点までの調査が可能であり、不可能と断定した時点の説明、さらに同一事例について解決にいたった館があるなら、その方法、資料、経過など、逐次検討され、研究内容に肉づけされていく。

例会テーマの設定は、一応主題別にしたがって、「人文・社会科学」「自然科学・産業」「芸術・語学・文学」「歴史・地理・伝記」の分野ごとに分け、順次実施する。したがって例会に参加する館員は、それぞれの館において、テーマの内容に最も関連の深い担当者が中心になる。

やがて大阪府立は、主題別閲覧制度の10年目を期して、その反省と将来における参考奉仕体制の充実を目指して『参考事務必携』を公にし、館界の意見を問うに至った。ことにこの種の必携は、その必要性が常に説かれながらも、具体的な作成要領が示されておら

ず、また実例が少なく、作成者にとっては、まったく暗中模索と試行錯誤の連続であり、実に苦しい作業であった。しかし、評価がいかなるものであっても、だれかが一石を投じなければという強い意欲となって現われるにいたった。この作業を通じて担当者各自が得た体験は、実に貴重なものであって、参考事務に関する考え方と理解の面、あるいは今後における参考事務に従来以上の大きな自信を学びとったことは大きかった。

第10回以降の研究会は、参考事務の定型化を求めて、大阪府立の必携を叩き台にし、部門ごとに進められている。

3 研究事例

累積された過去の事例は非常に多く、また難易マチマチで変化に富んでいる。事例集の刊行が話題に上っているが、いま本稿をまとめるにあたって振り返ってみると、苦労したなあと思う反面、その実績が私たちの自信と勇気づけに大きく役立っていることを痛感する。

次表は、事例の一部を再編したものであり、ご参考までに紹介しておく。

(1) 解決できたもの (人文、社会、自然の順) (大阪府立図書館の分のみ抜粋)

質問要旨	処理経過	補助資料・参考資料等
① チェコ語は、どん	① 補助ツール「外国語辞書件名索引」に	外国語辞書件名索引

質問要旨	処理経過	補助資料・参考資料等
<p>な言葉で、その辞書があるか。</p>	<p>より「チェコ(ボヘミア語)」の項あり。 :English-Czeck and Czeck-English dictionary.</p> <p>② 市河三喜, 高津春繁編『世界言語概説』(研究社), 索引によりチェコ語はロシア語・スラブ系の項にあり。</p>	
<p>② 古今集の英訳はなにか。</p>	<p>① 洋書目録になし。</p> <p>② 『市河・斉藤文庫目録』になし。</p> <p>③ 『日本関係新着洋書リスト』になし。</p> <p>④ 関西大学図書館『日本文学の外国語訳展示目録』に“Early Japanese poets”など4点あるが、いずれも本館に所蔵せず。</p> <p>⑤ 相談室で新聞記事に記憶あり, 補助ツール「新聞記事索引」一図書・図書館の項: 古今集の英訳完成 朝日新聞(45・1・13)</p>	<p>市河・斉藤文庫目録 日本関係新着洋書リスト 関西大学図書館「日本文学の外国語訳展示目録」 新聞記事索引</p>
<p>③ シラノ・ド・ベルジュラックはどれだけの映画・演劇になっているか。</p>	<p>① 『世界映画作品大辞典』(キネマ旬報社)になし。</p> <p>② 『演劇百科大辞典』(平凡社)により, 日本の初演, 額田六福翻案「白野弁十郎」大正15年1月, 新国劇 邦楽座。</p> <p>③ タナック「脚本資料」カード使用 脚本名 シラノによって7部抽出した。 昭和5, 26, 35, 42年の上演記録, 劇評を発見。</p>	<p>タナック「脚本資料カード」</p>
<p>④ 団地居住者の生活水準。</p>	<p>① 分類目録により図書を発見。</p> <p>② 社会科学室作成「雑誌記事索引」により新しい調査記事発見。</p>	<p>『団地のすべて』生活科学調査会編(医歯薬出版) 昭38 「住宅団地の施設と住民の意識」(『国民生活研究』7巻7号)</p>
<p>⑤ 株券に関し東証の上場規程が変わったというが, その内容を知りたい。</p>	<p>上記「雑誌記事索引」により関係記事発見</p>	<p>「有価証券上場規程等の一部改正について」(『証券月報』259)</p>
<p>⑥ 山手線各駅の最近における乗降客数。</p>	<p>① 東京都内の線だから『東京都統計年鑑』により乗客総数が判明。</p> <p>② 最近のと限定されているから, 『統計東</p>	<p>「国鉄の駅別乗車人員 昭和43年度」(『第20回東京都統計年鑑』)</p>

質問要旨	処理経過	補助資料・参考資料等
<p>⑦ Logomorpha, Pika, Cony, Hare についてどんな動物か。</p> <p>⑧ カエルの寿命</p> <p>⑨ 琵琶湖の湖沼図</p> <p>⑩ ポリウレタンゴムを燃焼させるとどんなガスがでるか。</p>	<p>京』誌を参照。主要駅のみであるが毎月の乗客数が判明。</p> <p>㊥ 上記は、いずれも乗客数であったが、乗降客数は古い詳しいデータのあることが判明。</p> <p>① 分類目録により図鑑、辞典、事典を参照したがなし。</p> <p>② 英語名かも知しぬと判断、ブリタニカを検索、判明。</p> <p>① 両棲類に分類される各単行書、百科辞典ハンドブック類を検索するもなし。</p> <p>② 学習参考室所在『平凡社児童百科事典』に発見。</p> <p>① そのものずばりの資料なし、琵琶湖に関する資料にもなし。</p> <p>② 地質図に関していつも照会する近畿地方建設局に問い合わせると建設省琵琶湖工事事務所開発課（大津市御殿ヶ浜13-41）にありと紹介を受く。</p> <p>① 合成ゴム関係の資料を見たがなし。</p> <p>② 朝日新聞記事に火事の時マットレスに寝ていた人の焼死体を検死の結果、青酸ガスが検出されたということから、大阪府立公衆衛生研究所に照会したところ文献を提供するとの回答を得た。</p>	<p>昭和43年) 昭45 「国鉄主要駅の乗車人員」(『統計東京』168) 「各駅旅客発着通過人員表」(『都市交通年報』昭和42年度) Britannica 『平凡社児童百科事典』 類縁機関に紹介 類縁機関に紹介</p>

(2) 未解決となったもの (誌面の都合により自然科学の分のみ)〔各館のもの抜粋〕

質問要旨	処理経過
<p>① 円周率1000位までわかるもの</p> <p>② 紙の防炎加工についての規格</p> <p>③ 宇宙食の製造法</p> <p>④ セーヌ川の水質規制について</p>	<p>岩波数学辞典では50位まで。</p> <p>① J I Sになし。② パルプ、製紙工業関係にもなし『月にいどむ実験室』に宇宙食の実際(アメリカ)はあるが、製造法は不明。特許? 『航空宇宙文献目録』国会図書館編で発見可能?</p> <p>① 河川工学に適書なし。② 『水質汚濁指針』には外</p>

質 問 要 旨	処 理 経 過
<p>⑤ 慶長以後廃鉱になった鉱山の抗道図について。</p> <p>⑥ トカゲのジッポが再産に要する日数。</p> <p>⑦ クマンバチが体と羽との関係で飛べないはずという説は？</p> <p>⑧ 土中1mの所にある鉛管の上に1tの重量がのった場合、鉛管を受ける圧力はいくらか。</p> <p>⑨ 大阪駅の設計</p> <p>⑩ 工程管理などで使われる dry cycleとはどういうことが。</p>	<p>国の例なし。③ 『公害・衛生工学大系Ⅱ』には、フランスの一般的な規制のみで、セーヌは記載なし。『佐渡金銀山の史話』、『日本科学技術史』、『日本産業史大系』、各鉱業所の社史等を見たが不明。</p> <p>① 昆虫学関係を調べたが、その事実は発見できず。② 雑誌記事索引より「昆虫の飛行筋の機能を追って」(『科学』1967.2)があったが、クマンバチに関してなく、研究者がOxford 大学 Pringle group なので問い合わせ不可能。</p> <p>① 土木工学、配管関係の資料を調査したが不明。② 後日、偶然、『鳥取農学会報』第20巻に「暗渠排水用プラスチックパイプの強度に関する研究(第2報)トラクターの踏圧による影響」に参考となるデータあり。</p> <p>① 分類目録により各種建設を検索したがなし。② 大阪駅要覧に配線図だけあり。</p> <p>① 工程管理、生産管理などの資料を見たが発見できず。② 時事用語、現代用語などの諸辞典、いずれもでていなかった。</p>

(きた・はるお 大阪府立図書館天王寺分館奉仕課長)

レファレンス事例

海舟日記抄(電話問合せ)

当館架蔵本は、全8冊のうち第1冊を欠くものであるが、勁草書房版全集巻頭の写真掲出本と体裁が全く一致している。この本文は、戦前の全集に収められた日記と同本文であるが、勁草版全集の解題では、この抄録本は日賀田男爵家の旧蔵本で修史館の蔵印記があると記されている。当館本も

同じ蔵印記が見え、用紙が修史館の用箋であること、また一致している。

戦前版の全集では、勝海舟が門下に命じて謄写したものと説明しているが、そうではなくて、海舟から修史館へ日記を提出したことがあって、それを修史館では、抄録写本を2部こしらえて、一部を勝家へ呈し、一部は修史館に蔵したものと解釈するのが妥当ではあるまいか。

当館が購求したのは、明治35年6月10日であり、扱った書店は、浅倉屋である。